

# 与論方言の格＝とりたてについて

當山 奈那(琉球大学)

[tohyama@ll.u-ryukyu.ac.jp](mailto:tohyama@ll.u-ryukyu.ac.jp)

2019年6月16日(日)

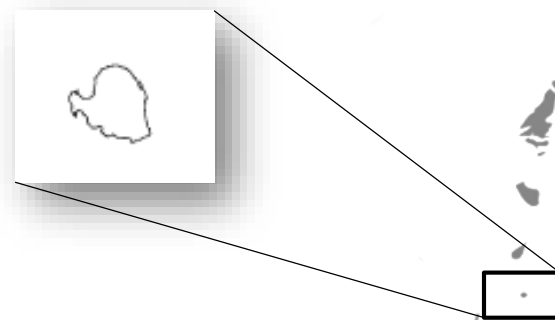
2019年度 第1回研究発表会「格・情報構造(琉球諸語)」

@国立国語研究所

# 本報告の趣旨

- 与論方言の=ga、=nu、=ja、=du、ハダカの形、そして=gadu、=ganuの形式は、構文機能上の主語を標示するほかに、一部の形式は、とりたて助辞として機能する。
- =gaは格形式であると同時に、とりたて助辞としても機能する格=とりたての形式である。=nuの形の名詞は、とりたて性を担わない。

# 与論島



- 人口5,251人(2019年5月現在)
- 話者数2,923人(2010年・木部2014)

# 格形式（複合形式は除く）

## 与論方言の名詞の格形式と意味面からの名づけ

はだか格	対格1、主格3、属格3
ga格	主格1、属格2
nu格	主格2、属格1
nan格	与格1
n格	与格2
kati格	方向格
nonti格	場所格1
ncjan格	対格2
kara格	奪格1
cjara格	奪格2
tana格	目標格
si格	具格
tu格	共格
e:kun格	对比

# とりたて形式（複合形式は除く）

与論方言	標準語	意味
—ga	-が	〈指定〉
—ja	-は	
—n	-も	
—du	-こそ、-しか	〈排他〉 〈特立〉
—dun	-しか	〈特立〉
—daki	-だけ	〈限定〉
—bakkai	-ばかり	〈限定〉
—naga	-など	〈反限定〉
—gadi	-まで、-さえ	〈極端〉
—e:ka		〈極端〉
—de:ka		〈極端〉
—e:ban		〈極端〉 〈反限定〉
—jancjun	-ぐらい	

# 主語の標示に用いられる形式

- 与論方言の主語をあらわす助辞として、ga、nu、jaがある。また、助辞がなにもつかない名詞(ハダカ形)も主語になることができ、他の形式との対立のなかでひとつの文法的な形式として機能する。

# 対象とする形式

- 本報告では、ga、nu、ハダカ形を対象としている。(助辞jaのかたちの分析まで行うことができなかった)
- また、古典日本語の「ぞ」に相当する形式duは、助辞の複合的な形式gadu、nuduのように主語をあらわす助辞として機能する。そのため、duについても分析する。
- 本報告では、主語にあらわれるga、nu、ハダカ、du、gadu、nuduの格＝とりたて形式の選択の条件を検討していく。

# 分析方法

## (1) 調査票を使用した面接調査から得た用例

- ・科研費基盤研究(S)「言語系統樹を用いた琉球語の比較・歴史言語学的研究」、国際沖縄研究所共同研究「島嶼間の言語接触の実態解明に向けての基礎的研究」の両プロジェクトのために作成された琉球諸語の焦点標示調査票を用いて得たもの(結果は添付資料)。
- ・報告者による補充調査。

## (2) テキストから得た用例

- ・菊千代(1985)『与論のしまがたり』から抽出したもの(用例末に作品名を記す)
  - ・菊秀史(2006～2014)『与論の言葉(ユンヌフトウバ)で話そう』(1)-(4)から抽出したもの
- 表記は報告者が統一している。訳も一部手を加えている。



# 前提

以下の観点から収集した用例を分析する。

- ・情報構造 〈新情報〉〈旧情報〉
- ・述語の意味的なタイプと時間的限定性
- ・とりたて性
- ・主語名詞の文法的な特徴に基づく意味分類

※ 複文、モダリティは課題。

# 情報構造（工藤2014）

- 工藤(2014:p107)は情報構造について、「伝達的 (communicative)な側面(聞き手との関係)」である、と述べている。
- 「新情報か共有情報(既知情報＝前提)かの違いには、〈聞き手〉との関係 (hearer's current epistemic state)が加わってくる。話し手は、確認した事象を、聞き手の知識状況を考慮に入れて伝達する」
- 工藤の規定に従い、はなしあいの構造の中に存在する文のもつ伝達的な側面を、〈新情報〉〈旧情報〉とに分類する。



# とりたて性

- 現実世界の出来事、話し合いの参加者の想定(知識)の中にある出来事と、文の対象的な内容を関係づける〈陳述的なかかわり〉を表す文法的なカテゴリー。すべての品詞やすべての文の部分に関わる。
- とりたての形式について。日本語学の分野では、とりたて助辞(とりたて形、とりたて詞、とりたて助詞などの言い方もある)が中心。とりたて副詞も工藤(2016)でふれられている。ほかに後置詞、語順やイントネーションがかかわる。また、広く係助辞もふくめたとりたての問題。
- とりたての意味について。とりたて助辞の研究では、「累加」「対比」「限定」「極限」「評価」「ぼかし」(日本語記述文法研究会編2009)、「限定—反限定」「極端—反極端」「類似—反類似」(野田2015)。

# 助辞duととりたて性

- 主語にあらわれるとりたて助辞du。場面の中にあたえられた複数の候補の中から、話し手がひとつをとりたてて、他を排除するという「**排他**」をあらわすことがある。このとき、話し手は、**とりたてたい文の部分の単語にdu**を後接させる。**〈他のもの〉**は文のなかにもあらわれることもあるし、場面に与えられていることもある。

シカマ ウイティ トントン ミンヤ パチャクター、ウヌ チュナギヌ キチュタル  
ドゥーヌ クワー=ドゥ シジ ウティティ キチ、ヒニューハサ キチ ビツチュタル マ  
マクワーヤ イチチ ビツチュタン テューサ。

朝起きてすばやく見に行ったら、その晴着着ていた自分の子が死んで落ちてきて、みのかさを着て座っていたまま子は生きて座っていたそうです。(ママ・クワー・イジミ(その2):158)

# とりたて助辞=duの機能

叙述文										命令文・意志文			
対比焦点			WH応答焦点				WH焦点			対比焦点			
主	目	述	主	目	述	文	主	目	述	文	主	目	述
F/F	F												
F:とりたて助辞duが使用可      動詞述語／非動詞述語													

- ・与論のduは対比焦点にのみあらわれる。
- ・述語の対比焦点の例はみられなかった。
- ・対比焦点は「とりたて性」があるとみなす。WH応答焦点とWH焦点は情報構造の問題。

# 主語の表示と名詞句階層

重野・白田(2016)は、名詞の有生性階層について、琉球諸語における通方言的な階層を検討している。重野・白田(2016)に従って、与論の主格の形式をまとめて、浦方言とならべると次のとおりになる。

	代名詞			呼称名詞		人名詞		その他	
	人称	疑問	指示	親族	固有	親族	人	有生	無生
与論	ga					nu		(ハダカ)	
浦	ga (/=ka)					nu (/=ka)			

# 主語の表示と名詞句階層

## ・代名詞(人称、疑問、指示)

1. wa:-ga eu-n.  
私がする。
2. ta:-ga ikjunga.  
誰が行くか。
3. taro:-nu ja:-nan-ja uri-ga aju-n.  
太郎の 家には それが ある。

## ・呼称名詞(親族、固有)

4. acikui-ja ittein anma:-ga teikuijabjun.  
朝ごはんはいつもお母さんが作ります。
5. attea: to:kjo:kara taro:-ga mudjun.  
明日は東京から太郎が戻る。



# 主語の表示と名詞句階層

## ・人名詞(親族、人)

6. To:kjo:-nan-ja jaka-ga tai hujun. Kagocima-nan-ja uttubi-nu hujun.  
東京には兄が二人いる。鹿児島には弟がいる。
7. attea: junnu-kati kenteidzi-nu e:bjun.  
明日は与論に県知事がおいでになる。

## ・その他(有生、無生)

8. taro:nu ja:nanja mjanka-nu hujun.  
太郎の家には猫がいる。
9. hadi-nu pukjun.  
風が吹く。

# 主語の表示と名詞句階層

「動詞述語文」で「文全体が新情報」の場合  
 基本的に-gaで現れるタイプの名詞をAタイプ、nu格で現れるタイプの名詞  
 をBタイプと名付ける。

	代名詞			呼称名詞		人名詞	その他			
	人称	疑問	Aタイプ	指示	親族	固有	親族	人Bタイプ	有生	無生
与論	ga					nu	(ハダカ)			
浦	ga (/ =ka)					nu (/ =ka)				

## 述語の意味的なタイプと主語表示

- 形容詞述語文や名詞述語文の時、Bタイプの名詞はgaの形であらわれることがある。

10. junnu-ja un-nu teurasan.

与論は海がきれいだ。

11. junnunu un-ga iteiban teurasan.

与論は海が一番きれいだ。

12. kekka-ja najui e:ɕiga naijo:-ga mondai ei.

結果はいいが、内容が問題だ。

# 述語の意味的なタイプと主語表示

- WH応答焦点では、動詞述語文の場合、主語名詞はタイプに従って標示される。

☺主語が〈新情報〉で、述語が〈旧情報〉

13. ta:-ga taro: nakateaga.

dziro:-ga nakacu:tan.

「誰が太郎を泣かせたの？」

「二郎が泣かせた。」〈Aタイプ:動詞述語文〉

14. ta:-ga taro: nakateaga.

uttubi-nu nakacu:tan.

「誰が太郎を泣かせたの？」

「弟が泣かせた。」〈Bタイプ:動詞述語文〉

# 述語の意味的なタイプと主語表示

同じく、WH応答焦点で、主語が〈新情報〉で、述語が〈旧情報〉。今度は名詞述語文の例。Bタイプの名詞がgaの形であらわれている。

15. taru-ga eu:nu to:banga.

wa:-ga eu:nu to:ban en.

「誰が今日の当番か。」

「私が今日の当番だ。」〈Aタイプ: 指定とりたて〉

16. taru-ga eu:nu to:banga.

dziro:nu uttubi-ga eu:nu to:ban en.

「誰が今日の当番か。」

「二郎の弟が今日の当番だよ。」〈Bタイプ: 指定とりたて〉

→とりたて性が出てくると、Bタイプの名詞はgaを用いる。

→とりたて性をnuの形はあらわすことができない。

# 格＝とりたて助辞の機能

		叙述文			命令・意志文
		対比焦点	WH応答焦点	WH焦点	対比焦点
<b>A</b>	Vt	gadu	ga	ga	ga
	Vi	ga,gadu	ga	ga	ga
	N	gadu,du	ga	ga	
<b>B</b>	Vt	nudu	nu		
	Vi	ga	nu		
	N	gadu,du	ga		

**A** : Aタイプの名詞    **B** : Bタイプの名詞  
**Vt** : 動詞 (他動詞) 述語文  
**Vi** : 動詞 (自動詞) 述語文    **N** : 名詞述語文

# 名詞述語文の対比とりたて

## ・Aタイプ

17. uraga  $\phi$ unu muranu sonteo:i:.

a:i:, wana: aradzi, taro:-gadu/du sonteo: de:ru

「お前がこの村の村長か？」

「いや、俺じゃなくて、太郎が村長だ。」

-gaduがつく形  
〈排他指定〉

-duがつく形  
〈排他〉

## ・Bタイプ

18. uraga  $\phi$ unu muranu sonteo:i:.

a:i:, wana: aradzi, wa: uttubi-gadu/du sonteo: de:ru.

「お前がこの村の村長か？」

「いや、俺じゃなくて、私の弟が村長だ。」

# 格＝とりたて助辞の機能

		叙述文			命令・意志文
		対比焦点	WH応答焦点	WH焦点	対比焦点
<b>A</b>	Vt	gadu	ga	ga	ga
	Vi	ga,gadu	ga	ga	ga
	N	gadu,du	ga	ga	
<b>B</b>	Vt	nudu	nu		
	Vi	ga	nu		
	N	gadu,du	ga		

**A** : Aタイプの名詞    **B** : Bタイプの名詞  
**Vt** : 動詞 (他動詞) 述語文  
**Vi** : 動詞 (自動詞) 述語文    **N** : 名詞述語文



# 他動詞述語文の対比とりたて

## ・Aタイプ

19. uraga tukkui watanmi.

a:i:, wana: aradzi, taro:-gadu waitaru.

「お前が壺を割ったの？」

「いや、俺じゃなくて、太郎が壺を割ったんだ。」

-gaduがつく形  
〈排他指定〉

-nuduがつく形  
〈排他〉

## ・Bタイプ

20. uraga tukkui watanmi.

a:i:, wana: aradzi, uttubi:-nudu/nu waitaru.

「お前が壺を割ったの？」

「いや、俺じゃなくて、弟が壺を割ったんだ。」

21. mjanka-nugadu ko:taru. ← =nugaduが1例のみ。排他指定??

「ネコがこそ食べた。」

# 格＝とりたて助辞の機能

		叙述文			命令・意志文
		対比焦点	WH応答焦点	WH焦点	対比焦点
<b>A</b>	Vt	gadu	ga	ga	ga
	Vi	ga,gadu	ga	ga	ga
	N	gadu,du	ga	ga	
<b>B</b>	Vt	nudu	nu		
	Vi	ga	nu		
	N	gadu,du	ga		

**A** : Aタイプの名詞    **B** : Bタイプの名詞  
**Vt** : 動詞 (他動詞) 述語文  
**Vi** : 動詞 (自動詞) 述語文    **N** : 名詞述語文

# 自動詞述語文の対比とりたて

## ・Aタイプ

22. taro:ga nateui?

a:e:, taro:ja aradzɪ, dʒiro: -ga / gadu nateui.

「太郎が泣いているのか？」

「いや、太郎じゃなくて、二郎が泣いているんだ。」

## ・Bタイプ

23. taro:ga nateui?

a:e:, taro:ja aradzɪ, cidabi-ga / nu nateui.

「太郎が泣いているのか？」

「いや、太郎じゃなくて、兄が泣いているんだ。」

Bタイプの-gaの形を  
どう考えるか??

# ハダカ格と特殊な構造の文

連語述語内の主語は、面接調査では、文焦点、WH応答焦点なら、nu格の名詞であられ、対比とりたてなら、nu/duの名詞があらわれる。

## ・Bタイプ

24. uro: issakara micikatta:ma cui e:eiga, itea eiteanga.

φuradzi-nu jamjui. 〈文焦点〉

「お前、さっきから黙っているけど、どうしたの？」

「頭が痛いんだ。」

25. uro: ida-nu jamuiga.

φuradzi-nu jamjui. 〈WH応答焦点〉

「お前はどこがいたいんだ？」

「頭が痛いんだ。」

26. uro: watanu jamjunteii:.

a:e:, wato: aradzi, φuradzi-nu/du jamjui. 〈対比とりたて〉

「お前は腹が痛いのか？」

「いや、腹ではなくて、頭が痛い。」

# ハダカ格と特殊な構造の文

テキストでは、文全体が新情報(文焦点)の場合、ハダカの名詞の形であらわれる。

27. wa:teiki-gawai ei:-gisa-ru ban-ja ittein akaja:  
天気-がわり する.SEQ-ADJVS-ADN 時-TOP いつも INTJ

wata ja-di kju-i-tei  
腹 痛む-SEQ 来る-EVD-QUOT

「天気が変わりそうなときはいつも「痛い、**腹が痛くなってきた**」と」

これは、現象名詞の標示と類似している。

28. ami(-nu) pu-ta-n. (雨**が** 降った。)

29. u:hadi(-nu) pu-ta-n. (台風**が** 吹いた。)

30. mintama(-nu) ndzi-ta-n. (芽**が** 出た。)

# ハダカ格と特殊な構造の文

nu格とハダカ格のどちらでもあらわれる名詞のタイプにとりたて性が生じたとき、どのようにふるまうかを調査・分析する必要がある

	代名詞			呼称名詞		人名詞		その他	
	人称	疑問	指示	親族	固有	親族	人	有生	無生 この 辺
与論	ga					nu (ハダカ)			
浦	ga (/=ka)					nu (/=ka)			

## 他の複合的な形式(時間があれば)

- -gaga

アリガガ シチャンボー ワヌカティ ハタユル パジ。

彼が したのなら、私に 教えるはずだ。

- -nuga

ミヤンカヌガ クータラ、プチャタル イューヌ ネーナトウイ。

ネコが くわえたのやら、干してあった 魚が なくなっている。

- -gagadu

アリガガドウ トウタル。

彼がこそ とった。

# 与論のduの特徴的な点 (時間があれば・・・)

## 疑問文

「AかBか」のような選択疑問文の中で、選択肢としてさしだされた単語にduを後接させてあらわす例がみられた。なお、このような選択疑問文に対して回答する場合、duを含む選択疑問文でさしだされた選択肢の中から、話し手はひとつを選ぶことになる。この場合、次の例のように、duは用いられない。(名詞述語文の例)

- janni-nu kokutai-nu kaisaiken-ja kagosima-du hukuoka-du.  
hukuoka e:bjun.

「来年の国体の開催県は鹿児島か福岡か。」「鹿児島です。」



# 謝辞

- 本報告は、JSPS科研費17H06115「言語系統樹を用いた琉球語の比較・歴史言語学的研究」(代表:狩俣繁久)、国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」(代表:木部暢子)、JSPS科研費17K13455「国頭諸語の記述文法とドキュメンテーション」(代表:當山奈那)の助成を受けたものです。
- 菊家のみなさまはじめ、与論島のみなさまにこの場をかりて心よりお礼申し上げます。

# 参考文献

- 木部暢子(2014)「鹿児島県与論方言」『文化庁委託事業危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究(八丈方言・国頭方言・沖縄方言・八重山方言)報告書』(国立大学法人琉球大学国際沖縄研究所)
- 工藤浩(2016)『副詞と文』(ひつじ書房)
- 工藤真由美(2014)『現代日本語のムード・テンス・アスペクト論』(ひつじ書房)
- 重野裕美・白田理人(2016)「北琉球奄美方言における有生性階層—奄美大島浦方言と喜界島上嘉鉄方言・小野津方言を例に—」『広島経済大学研究論集』38-4.
- 野田尚史(2015)「日本語とスペイン語のとりたて表現の意味体系」『日本語文法』15-2(日本語文法学会)